

あさのは

平成27年4月10日発行
発行：長岡赤十字病院
長岡市千秋2丁目297-1
電話 0258-28-3600
ホームページアドレス
<http://www.nagaoka.jrc.or.jp/>



長岡赤十字病院健康だより

「あさのは文様」という麻の葉をデザインしたものがあります。麻は丈夫で縁起がよく、健康を願って、昔から私たちの身のまわりの模様として使われてきました。これをお読みになる皆様の健康を願い、「あさのは」と名づけてあります。



「入院支援センター」が開設しました

・・・入院支援センターって何をするとところ？・・・

「こんにちは。入院支援センターの看護師の〇〇です。診察の前に、お話を聞かせてください」という挨拶から始まります。『初めての診察から、入院まで』の支援を行う部署として、3月から活動を開始しました。初めて消化器外科を受診する患者さんには、診察の前に入院支援センターへ寄っていただき、今までかかった病気や飲んでいるお薬などについて伺い、医師の診察がスムーズに行われるような準備をしています。

・・・開設の準備は、今年の6月から・・・

国の方針が、「病院完結型の医療から地域完結型へ(早期の退院)」と変わっていく中、「患者さんが安心して医療を受けられるよう、入院前から『からだ・こころ・社会での役割などの側面』をしっかりと知り、入院中はもちろん退院後も切れ目のない一貫した支援を行う事」を目的に準備を進めました。

・・・入院手術の予定が決まったら・・・

外来の診察が終わったら、もう一度入院支援センターへ来ていただきます。高額療養費など医療費についての説明は事務職員より、入院までの家での準備については看護師が行っています。入院支援センターという空間を設けることで、皆様がゆったりと話をしたり聞いたりできるような「お・も・て・な・し」を心がけています。必要に応じて、医療相談員や退院調整部門と連携を取り、在宅での療養・外来・入院と、切れ目のない支援体制がとれるようお手伝いをしていきます。

まだ消化器外科の患者さんだけが、徐々に対象科を広げていく予定です。

(入院支援センター看護師 井木)

お知らせ

3番「入院支援センター」開設に伴い、以前設置されていた「授乳コーナー」が1階喫茶室の向かいに移動いたしました。授乳をされる赤ちゃん連れのお母さんは、そちらをご利用ください。

幼児の安全シリーズ 第2回



こどもの病気は大人と違います

こどもは心身ともに発育途上にあるため、機能が未熟で抵抗力も弱く、病気にかかりやすいのですが、強い生命力があるので比較的早く回復します。しかしその反面、病気の進行が早く症状がひどくなる場合があります。元気に遊んでいたこどもが突然熱を出して、周りのみんなを慌てさせることがあります。こどもは具合が悪くなくても、どこがどのように悪いのか上手く訴えることができません。全身の観察をして、普段と違うことに早く気づくことが大切です。

おやっ!と思ったら ~こどもの観察ポイント~

- *皮膚：色、はれ・きず・ポツポツはないか、かゆみはないか、乾燥していないか
- *のど：声・せき、痛みはあるか、赤くなっていないか、扁桃がはれていないか
- *目：目の輝き、充血していないか、目やには出ていないか
- *体温：普段元気な時に測って平熱を知っておきましょう
- *耳：耳だれがあるか、痛みはあるか、聴力はどうか

他にも、表情・鼻・口・食欲・痛み・睡眠・便・尿などの観察をします。

「ぐったりしている」「機嫌が悪い」「食欲がない」「眠らない」などは病気の無言の信号といわれています。

こんなときは急いで病院へ

- ・顔色が悪い・ぐったりしている
- ・息づかいがあらい・意識がない
- ・頻繁に吐く・出血がひどい
- ・ひきつけがなかなか止まらない



初めは症状が軽くても、「長時間続く」「次第にひどくなる」「繰り返して起こる」「他の症状があわせて出てくる」といった場合には重大な症状につながる場合があります。まわりの大人が気づいてあげましょう。

次回はさらに詳しく、こどもの観察ポイントについてお知らせします。(幼児安全法指導員 高橋)

当院の
医療技術職員
業務紹介Part9

診療放射線技師の業務紹介

その7「放射線治療」

放射線治療はがんに放射線を当てて、がん細胞を消失させたり小さくさせる治療であり、手術、化学療法と合わせ、がんの三大治療の一角を担っています。また骨に転移したがんによる痛みを和らげたり、神経を圧迫してしびれや痛みの原因になっているがんを治療する時にも行われます。

当院では体の外から放射線を当てる「外部照射」を行っております。外部照射の一般的な治療期間の多くは1週間のうち5日照射をし、これを1ヶ月から1ヶ月半続けます。

診療放射線技師は、放射線治療の専門医が診察や画像診断によって決定した治療方針と治療計画に基づき、放射線照射を行います。治療部位の皮膚に付けた印を基にX線撮影を行い、照射する位置を正確に把握した後、治療用の放射線を照射します。

患者さんとは毎回顔を合わせておりますので、不安な症状など無いか、照射部位の皮膚症状の変化はないかなど、コミュニケーションを取りながら観察し、医師や看護師に報告や相談をしています。

もう一つ診療放射線技師の業務として、放射線治療装置の品質を管理することがあります。正確な位置に正確な量の放射線を日々照射するためには、装置が正常に動作していることを確認することが重要です。

患者さんを中心とした安全で安心な放射線治療が提供できるように日々研鑽しております。

(診療放射線技師 神林)